

イベント報告

『トランスジェンダー問題』を生きる

コーディネーター：葛原千景

(CGS研究所助手)

本イベントでは『トランスジェンダー・イシュー』の日本語版翻訳者である高井ゆと里氏をお招きし、「トランスジェンダー・イシュー」をめぐる内容について議論を交わした。近年のメディアにおいてトランスジェンダーをめぐる語りは、トイレや大衆浴場、外性器の状態に関する侵襲的な問いで占められている。イギリスのジャーナリストでトランスジェンダーの女性であるショーン・フェイはこうした傾向を「トランスジェンダー・イシュー」と名指し、同名の著書を2021年に出版した。そうしたシスジェンダーの関心によって扇動される偏重報道を批判すると共に、フェイはむしろ医療制度における不正義、階級格差、セックスワークの刑罰化、国家暴力、LGBTの中での周縁性、フェミニズムにおけるトランスフォビアなど、トランスジェンダーの生存に深く影響を与える問題に光を当てた。イベントの構成は、司会のジェンダー研究センター研究所助手の葛原からの概説、高井氏による本の解説、参加者を交えた質疑応答から成り、計90分となった。

イベントは学内外、学生、研究者を問わず広くトランスジェンダー問題に関心のある人々が300人以上参加し、アンケートにおける評価においても非常に好評を得た。とりわけ、社会的に関心が高まる事象である一方で、虚偽の情報が飛び交うトランス問題について時事的に扱うことができたことは大きな成果であるといえる。なかでもトランスジェンダー当事者からも多く好意的なコメントが寄せられたことから、現実社会のトランスの人々にとっても非常にクルーシャルな話題について適切な認識を広める一つの機会となったと考える。

Event Report

Living with *The Transgender Issue*

Coordinator: Chikage KUZUHARA

(Research Institute Assistant, CGS)

We invited Prof. Yutori Takai who translated the Japanese version of *The Transgender Issue: An Argument for Justice* written by UK journalist Shon Faye, and we had a conversation about the book. Faye criticizes UK media representation dominated by only cis-centric “concerns”: genitalia, and she calls this bias the transgender issue. She rather focuses on real transgender issues, injustice in the medical system, class struggle, sex work, institutional violence, and exclusion from feminism and LGB politics. Yutori and Chikage (Research Institute Assistant of CGS) discussed these erasures in 60 min, and they answered questions from the audience in 30 min.

More than 300 people joined this event and highly recognized our talk in their feedback. We could engage in clearing up the misunderstanding for transgender people when harsh transphobia has been standing out in Japan. We must keep addressing and challenging misrepresentation and structural discrimination against trans people and gender varial people globally.